

リシンの症状

症状の重症度はリシン中毒の度合いと方法により異なります。

大量のリシンを吸入した場合は、咳、胸部の圧迫感、息苦しさ、吐き気そして筋肉痛の症状が、毒素の吸入から数時間以内に現れます。その後数時間に肺が激しい炎症を起こして余分な体液が溜まり、呼吸困難に陥ります。

リシンを体内に摂取した場合は、嘔吐や出血性下痢の症状が起きます。最終的には中毒患者の肝臓、すい臓および腎臓が機能を停止します。症状はリシンの摂取から数時間以内に現れます。

リシンを注射した場合は、まず注射した部位の筋肉やリンパ節が壊死を起こします。

次第に肝臓、すい臓、腎臓も機能を停止し、胃腸から大量出血をするようになります。最終的には多臓器障害で死亡します。

吸入、摂取または注射にしても、リシン毒素による死亡は中毒から36-48時間以内に引き起こされます。

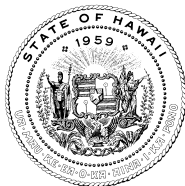
詳しい情報は

Aloha United Way



www.hawaii.gov/doh

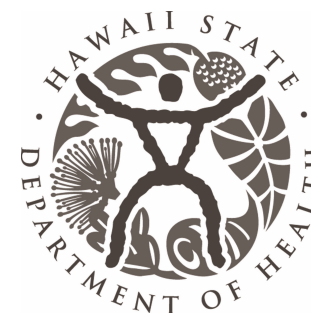
または
www.cdc.gov



ハワイ州保健局は人種、肌の色、国籍（言語を含む）、年齢、性別、信仰、および障害の有無にかかわらず、そのプログラムと活動を利用する権利をすべての人に提供します。

問題が起きた場合は、180日以内に書面もしくは電話にて差別撤廃措置担当者までご連絡ください。

Box 3378, Honolulu, HI 96801-3378 または
(808)586-4616（音声メールボックス）



ハワイ州保健局

www.hawaii.gov/doh

お問い合わせやご相談は
2-1-1までお電話ください。

リシンとは？



リシンはひまし油の生産のために処理されたトウゴマの実の「クズ」から作られた猛毒です。粉末や小粒、または水や弱酸に溶けた液体の形状をしています。リ

シンは人体の細胞内で毒性を発揮し、細胞におけるたんぱく質の合成を阻止します。たんぱく質が欠如すると細胞は死に、次第に体すべての機能が停止して死に至ります。

中毒の経路は？

偶発的にリシン中毒になる可能性は極めて低いです。リシンを生産して人に中毒を起こさせるには、意図的な行動が必要です。

- リシンの噴霧や粉末を吸い込んだ場合
- リシン毒素を含んだ食物や水を摂取した場合
- 注射された場合

リシン中毒は感染症ではありません。日常的な接触では人から人に伝わることはありません。

症状は？

症状の重症度はリシン中毒の度合いと方法により異なります。

- 大量のリシンを吸入した場合は、咳、胸部の圧迫感、息苦しさ、吐き気そして筋肉痛の症状が、毒素の吸入から数時間以



内に現れます。その後数時間に肺が激しい炎症を起こして余分な体液が溜まり、呼吸困難に陥ります。

- リシンを体内に摂取した場合は、嘔吐や出血性下痢の症状が起きます。最終的には中毒患者の肝臓、すい臓および腎臓が機能を停止します。症状はリシンの摂取から数時間以内に現れます。
- リシンを注射した場合は、まず注射した部位の筋肉やリンパ節が壊死を起こします。次第に肝臓、すい臓、腎臓も機能を停止し、胃腸から大量出血をするようになります。最終的には多臓器障害で死亡します。

吸入、摂取または注射にしても、リシン毒素による死亡は中毒から36-48時間以内に引き起こされます。

治療方法は？

リシン中毒は、毒素の影響を最小限にするために、中毒患者に病院で対症療法を施すことで治療されます。解毒剤は現在ありません。



中毒の発見方法は？

リシン中毒を確認する広く利用可能な、そして信頼性の高い検査は存在しません。病気の症状、中毒が起きた地域でのリシンの存在、および同地域

で他に中毒患者が発生しているかの知識を元に判断が下されます。

曝露後の対処方法は？

直ちに医師の治療を受けてください。また、医師にリシンに曝露した可能性があることを伝えてください。



入手場所および使用方法は？

リシンはトウゴマの実が処理されている場所であれば世界中どこでも入手できます。骨髄移植やガン治療などの

医療目的での使用も研究されています。

なぜリシンがテロ攻撃に使用されると警戒されているのですか？

リシンは比較的早く作用する極めて有害な毒素です。リシンはひまし油の生産のために処理された「クズ」の一部として天然に作られます。世界中でトウゴマの実が処理されているために、テロリストが毒素を作る原材料を容易に入手できます。

ペットや他の動物が曝露して病気になる可能性は？

はい、あります。ペットや他の動物はリシンに過敏に反応します。ご自分のペットが曝露したと思われる場合は、直ちに獣医の診断を受けるようにしてください。



Castor bean pod, castor bean and supportive care
photos courtesy Agriculture Research Service,
U.S. Department of Agriculture